いわき民報
平市田町一八三番地　電話八四番
印刷人兼發行人　巳克輝千
編輯兼發行人　爺
日刊　但月曜を除く
定價一月二十四部一七圓
發行所
社報民報きいわ

# 市衛生組合連合會成る

## 官僚色一掃役員は全部民間人で

市衛生組合長會議は二十日午後一時から公會堂日本間に開き從來の同組合は一應これを廢しこれに代つて市内三十六區に新衛生組合を設けることになりこれまでの衛生區長が組合長を勤め各區内の衛生世話係は衛生部長とする一方これを統轄する平市衛生組合連合會を新設し官僚色を一掃するため役員はすべて次の如く市民から起用した

◇會長鈴木正男（田町）◇副會長熊坂德（四丁目）同田久要吉（堤ノ内）

## 主食類割當は食調專門委員會成る

### きよう郡下を五班に分類して

石城地方事務所では十九日平市湯殿山に食糧調整委員會を開き、各專門委員は各市町村の食調委員から班別に選出することになり、推薦の結果左の通り決定、五班を結成したが町村の主食割當は今後にかける專門委員の活動に待つことゝなつた

◎第一班班長木村幸雄、◇收穫委員金成淺治、木村幸雄、高崎榮雄、阿部安清、◇經營實體調査委員佐藤唯之助、渡邊武藏、猪崎伊吾（大野、大浦、四倉、神谷、草野、夏井、高久）◎第二班班長竹内万吉、◇收量委員佐藤隆丸、松本忠夫、鈴木政一、高萩凱◇經營委員相田忠一郎、草野幾右工門、草野隆貞、竹内万吉（平、澤渡、赤井、永戸川前、小川、好間、飯野）◎第三班班長山崎五三◇收量委員山崎五三、櫛田彦之進、水野直記◇經營委員高木あきら、木田周平、齋藤貞佳（内郷、入遠野、渡邊、湯本、磐崎、上遠野）◎第四班班長吉田勝記、鈴木實、丹野作平◇經營委員本田秀夫、四家重雄（泉、豐間、小名濱、江名、鹿島）◎第五班班長高木武一郎◇收穫委員鈴木明、堀田一政永山昇◇經營委員齋藤義高木武一郎、山野金兵衛（川前、山田、稲田、勿來、錦、田人）

## 炭勞側の委員決る

### 炭鑛管理委員會

きのう代表會議で炭勞常磐支部第六回組合代表者會議は二十日午前十時から市勞働會館に開き全國大會支部經過報告等後地方炭鑛管理委員會の勞働者側委員選出を行つた結果、左の通り炭勞側から十二名を擧げた、なおメーデーには、地區勞大會に參加その他關炭鑛離實會連合會の設立に就いても協議した

『炭連』齋藤茂雄（常磐湯本鑛）宗達一男（常磐磐崎鑛）『茨城』影山清春（中郷炭鑛）今井弘（重内炭鑛）五十嵐英雄（櫛形炭鑛）『日鑛』大友力（大日本勿來）工藤茂雄（山田）『中立』末定二名古河好間と常磐炭鑛職組から出す『秋田山形、岩手』末定一名『執行部』町田銀治一條與作斗爭委員長

## 四月分味噌醬油の豫約

市の四月分味噌醬油の豫約は二十二日から三日間新綜合通帳五號券で行う、現品は來月中旬ごろ味噌八十匁、醬油二合の割で配給される豫定

## 職業指導協議會成る

### 市郡新制中生の職業補導目指し

平市と郡内の新制中學生の職業指導を目的とする職業指導協議會の發會式は二十日午前十時から平公共職業安定所で開き會長に田中小名濱中學校長、副會長に樋口平公職安定所長、中村片倉製糸工場長を決め幹事十五名は各學校、事業場等の代表を當てる豫定で近くこれを決定する

## AMPクの座談會

近着映畫について

平市AMPクラブでは二十二日夜終館後樂館別館に座談會を開いてセントラルモーションピクチュア宣傳部の荒木逸雄氏について近着アメリカ映畫の話をきく、なおクラブではセントラル社の協力改革決定並に促進に就き協議した

高價買入
市内三丁目
平
カメラ
タイカ

## パン配給

一人當り三個ずつ

平食糧公團では本部からの指令により、現在米を配給中の平並に内郷町一部に甘味パン（一ケ三円二十五錢）無糖パン（一ケ一円四十五錢）一人當り三ケを二十一日から計畫配給、米との換算率は百二十グラム、なお砂糖の配給は現物は本團に入荷濟だが何等の指令もないが配給されゝば三月分である

## 冬眠狀態で成行靜觀

### 小名濱健保組合の再開お流れ

小名濱健保組合では二十日理事並に議員連合會を開いて組合の存續方法について懇談したが、結論は健保の再開は專屬診療所の建設にあり、この建設は健保連營に對しての政府補助に俟つものとしてそれまでは冬眠狀態の現狀で成行をみることゝなつた

## 強豪明電舍迎えて

### 中球場 警 25日 市營球場資金造成野球大會

警球スポーツ連盟では二十五日午前十一時から磐中校庭に市營球場資金造成の硬式野球大會を開き、實業野球明電社對常磐チーム並に平クラブと戰を展開する

## 全炭側では四名を要求

全石炭福島本部では地方炭鑛管理委員會には勞働者側から

## いわき寸言

▲毎月第一日曜日を清掃デーとす、形式にほれて實を失う勿れと祈る

▲金より物、衣類泥濘々たり御用心を

▲こう連續的ドロ事件となると盜む方が愚いか盜まれる方が非かハテ解らなくなるワイ

お知らせ

只今第三回のパン配給を始めました、配給パン券の引換御利用は燒立の美味しい平パンの取扱店を御利用ください

有限會社　平製パン

取扱店

大町（第四）配給所前　常葉屋
柳町　福島屋
新川町　吉田屋
胡摩澤　清水屋
鍛治町　平製パン販賣部

移轉御通知

新事務所　福島縣平市堂ノ前十一
電八〇五、九八三（經理部）
二二七、五六九（業務部）

此度新社屋が竣工落成致しましたので四月十日から業務を開始致しております何卒御通信其他に關しては同所宛迄御願ひ申上げます先は移轉御通知かたく御願ひのお願ひ申上げます先は移轉御通知かたく御願ひの◎執務時間外は「五六九番」を御利用下さい

常磐石炭株式會社

# 福島縣の古俳壇 ㈣

平石太郎

福島俳壇

福島を中心とした信達地方には福島大円寺のはい僧一具をはじめ西美、忍山、珠屑等の有名なはい人が居つた。この外信夫山の句をよんだはい人は數多くあげられる。

西坂珠屑は幸七と稱し御山村の名主で郷黨の子弟の敎化にあたつた。白石の乙二と親交があつた。福島藩主板倉侯の知遇を得て居つた。安政六年二月十九日歿、年八十四、幕末より明治にかけて福島はい壇に非常な足跡を印した鐸木西美が居るが今の所よく分つていないのが殘念である。高梨一具は福島大円寺の住職山形の人である。文政年間、寺を去つて乙二の門に入つた。天保の蒼虬梅室等と伍してそん色がなかつた。嘉永六年十一月歿年七十二

磐城俳壇

内藤丸虎露沾時代にあれほど活潑なうごきのあつた磐城はい壇は漸次衰進の一途をたどり内藤氏に代つて井上氏一代安藤氏の代に冠見という寶井基円について學んだはい人が居るが、之は磐城轉封前の藩主であるから直接關係はない。そのはい系をうけついだ十雨が居て平はい壇にその名をとゞめて居る。彼は安藤家三代目の城主で短册、色紙類がその道の好事家の許に殘つてる。天保年間短長舎撰として平飯野八幡宮に奉納された額があり、之に由つて當時のはい人連中の名丈知り得るがその他のことについては今の所、詳述出來ないのは殘念である。湯本の地は古來より温泉のため文人墨客の來遊もあつたらしい土地の人にも湯長谷藩の連中にも一寸はいかいをたしなんだ人が居つたものと思推される。文政九年に刊行された雨夜集にも、文政丁亥年に刊行されたはいかい男草紙にも光城湯本として數名のはい人の名があげられているが今の所何も分つて居ないのが殘念である全町金比羅神社の奉納額にも數多くのはい人連中の名がのつているが湯本温泉の遊女であるか、それとも湯長谷藩の連中であるか、今の所殆んど分つていない。

湯本町勝行院、惣善寺の墓地には句碑、歌碑が相當現存するので、當時歌はいの道にしたしんだ人が相當あつたものと思推されるが、今の所寺にも記録がなく、それらしい家にも何等の資料が殘つてない

× ×

小名濱代官の森四郎次郎は左波と號しはい句をよくし、若干の遺墨もあり、はい句も殘つているが、その他のことについては何等の材料も殘つていない。

× ×

泉藩主の本多忠籌侯は松平定信を輔佐した寛政の治の功勞者であるが、一面文人としてみのがし得ないところがある候は水翁と號しはい句、書、畫をよくした。旅日記に『霧の海』『戻り笠』『こその枝折』『旅日記』等があのすぐれた紀行文があるが、文といひはい句といひ、すぐれた筆致で、芭蕉の奥の細道を思はせるものがある。文化九年十二月十五日卒泉神社にまつられている

## 港灣會社に非分なし

### 港榮組とは全然別個のもの

目下法的には

推薦洩れのものはサボ組だつたからだと思う

【既報】小名濱港灣會社の下請負港榮組（組長西丸伸郎氏）では職業安定法により禁止される勞務供給事業に該當するので三月末解散したがその際使用していた二十六名の勞務者のうち十九名だけを親會社とも云うべき同港灣會社に入社させ殘りを業務怠慢を理由に退職手當も支拂ず首切りを行つたことから問題となり小名濱民主協議會平地區勞ではこれを不當行爲とし港灣會社へ解雇組を入社させるべく運動中であつたが十九日には平勞働基準監督署、平公共職業安定所平勞政事務所からも係員がそれぞれ同會社を中心に事情の聽取に當つた、この結果を綜合すると

港榮組と港灣會社は別個のものであり港榮組は既に解散し若し解雇組が不服ある場合は同組に對し申立てるべきである、各勞組團体が解雇組を港灣會社へ入社させようとするならばあくまで友誼的に懇請すべきで法的には港灣會社に缺陷はない

まだ三者とも深く調査は出來てないが目下の處ではこうした見解を下している

### 全員收容力 現在なし

西丸副社長談

右について小名濱港灣會社副社長西丸猛氏は語る

港榮組の解散に當つて同組の推薦のあつたものだけを採用した、大体僕の會社と港榮組は別個のものでありまた全員を採用する程收容力も目下の總會社側にない

精神科 内科
アラタメ 新田目醫院
平市揚土鎧小路 電15

## 釜の配給

二十七日から七日間

市では二十七日から一週間釜の配給を行う、この釜は先に市で市民から希望を募つた、うちこれだけが現品の入荷見込がつかず配給出來ずに困つていたものを一丁目關原商店の好意で現品の提供があり行はれることになつたもの

## 樂園青いリボンの美擧

小名濱町樂園『青いリボン』では去る十七日同町第一小學校で藝能祭を開いたがこの樂園を率いる小野次男、清君の兄弟は此益金をその儘そつくり六三、制設金の一部に使つて下さいと同校へ寄附し關係者を喜ばせた

## 小名濱造船職組の寄進

小名濱町總鎭守諏訪神社の神橋が腐朽甚しいため全町造船職工組合では五月十五日の例大祭を前に新橋を架替へ寄進することになつた依つて町では十九日經濟委員會を開いてこれが寄附受入れに伴う豫算の更正を行つた

## 怪漢に襲わる

飯野村小泉小野牛五郎さん（四三）は去る十七日夜友人の市内白銀町長谷川三郎さん方で飲酒泥醉の上他の友人を訪ね再び長谷川さん宅に戻つて來たところ尾行して來た二名に、用事があるから顔を借せと呼び出され、全町エビスヤ食堂前に來ると又二人加り、四名のために顔面を毆打された上、現金千三百円入りの上衣とワイシャツをはぎとられた

## 寫眞機盜難

市内田町寫眞業山野邊齋一さん（三八）方では十九日午後二時ごろ二階撮影場からマミヤシックス二型寫眞機一台、時價一万四千円を盜まれた

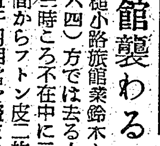
官馬場政任さん（三九）方では去る十八日午後二時ごろ不在中に奥六疊間のタンスから女物給羽織など衣類二十六點、七万円を盜まれた

## 旅館襲わる

市内才槌小路旅館業鈴木トヨさん（六四）方では去る十九日午後三時ごろ不在中に二階六疊客間からフトン皮二枚ほか三點五千円相當を盜まれた

## 財布をすらる

好間村大字上好間字大島農小張光義さん（五七）は去る十八日午後三時ごろ市内三丁目附近の露天商を見物中、上衣ポケットから現金千円並に證書入りの革財布をスラれて平署へ




平自治警察が發足以來僅々六十日足らずの間に届出をみた自轉車泥はザッと四十件價格見積りで二十五萬円、このうちで發見されたのはチンと僅か一割の四台、警察當局も手を燒き、金田司法主任は要するに所有者の油斷が一番禁物、成るべく前後車別々に錠をかけ又所有者の氏名もハツキリと書いて置いて欲しいもの、十分とはゆかなくとも幾分盜難防止とはなろうといつている

タイプ販賣
出張修理
タイプライター
榮商會
平市田町五五
電一一〇四

優秀各種
ミシン
販賣・修理・部品
平二丁目 シンガー
石川商會ミシン部

## 野荒捕わる

二十一日午前一時半ごろ市内彌宜町を大きなリックと風呂敷包を背負つた男が通るのを平署員が調べるとこの男は双葉郡津島村農山下宮治（四三）で草野驛から平市へ來る途中神谷村地内の畑からネギ、白菜等六貫を盜んで來た野荒し君であることが判つた

積算電力計豫約致シマス
電力・電燈メートル
近日多量入荷
御一報次第
參上御相談に應じます
電燈・電力工事請負
藤浪電機工業所
平市白銀町 電882番

## 不在中狙わる

市内磐城跡中石炭局商工技

◆開店御知らせ◆
御婚禮用家具は是非當店へ御願いします
家具、本型鏡台、雜貨其他一式
平市一丁目 電四〇五、三一六
和久井屋家具店
製作所好間村下好間
渡邊製作所

移轉お知らせ
新、小名濱西町一一七
舊、小名濱町中島
右に移轉致しましたから何卒よろしくお引立の程願い上げます
從來通り委託加工もお引受致します
營業所 小名濱後宿天王様前
榮泉堂パン店
店主 湯谷幸一

骨董 貴金屬
寶石 和洋服
高價買入れ
平市南町中館西隣
電話九一五番
中央會館